第４課　詩篇と箴言における慈しみと裁き

【暗唱聖句】

「弱者や孤児のために裁きを行い、苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ。弱い人、貧しい人を救い／神に逆らう者の手から助け出せ。」詩篇82：3，4

【日曜日・詩篇―虐げられた者たちにとっての希望の歌】

詩篇には苦悩と困難の中にある人たちの叫びが数多く書かれてあります。不正を行う者たちのほうが、神様を信じ善良に生きている人を上回っているかのようです。しかし、詩篇の記者の神様に対する信仰は消えていません。救いの時を待ち望んでいるのです。

「主は裁きのために御座を固く据えとこしえに御座に着いておられる。御自ら世界を正しく治め国々の民を公平に裁かれる。虐げられている人に主が砦の塔となってくださるように。苦難の時の砦の塔となってくださるように」詩篇9：8～10

詩篇の記者は神様の裁きは常に正しく公平であることを信じて疑ってはいませんが、現実の状況は非常に大きな困難の只中にあり、「憐れんでください、主よ、死の門からわたしを引き上げてくださる方よ。御覧ください。わたしを憎む者がわたしを苦しめているのを」（詩篇9：14）と叫ぶしかない状況です。そのような中にあって、主は虐げられている人の砦であると言います。ここに信仰があります。人生の様々な苦難と悲しみの中で、神様の中に飛び込まない限り、本当の信仰というものはわかりません。あえて、神様が苦難を許されるのは、主が本当に私の砦であることを知るためです。

「主よ、御名を知る人はあなたに依り頼む。あなたを尋ね求める人は見捨てられることがない」詩篇9：11

主を知ること、そしてより頼むこと、その人は見捨てられることがありません。つまり、主が砦となってくださるということです。どんなに虐げられていても、この主との深い関係にある人は希望と喜びがあるのです。

【月曜日・神よ、何とかしてください！】

「神は神聖な会議の中に立ち神々の間で裁きを行われる」詩篇82：1

神様は神々の中で裁きを行われる裁判官として描かれています。そこには圧倒的な存在感がり、本当の裁きは神様からのみ来るのだということが印象付けられます。神々とは、神的存在（天使）や各氏族を奉ずる神々を指すという解釈もありますが、人間の裁判官を指す（「神の言葉を受けた人たちが、『神々』と言われている」ヨハネ10:35）と解釈するのが良いでしょう。いずれにしてもそれらを遥かに上回る裁き主、それが父なる神なのです。

「いつまであなたたちは不正に裁き、神に逆らう者の味方をするのか。弱者や孤児のために裁きを行い、苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ。弱い人、貧しい人を救い、神に逆らう者の手から助け出せ。」詩篇82：2～4

この世の裁き司は正しい裁きをせず、弱者は見捨てられている状況です。地上の権力者は弱者を理解することもなく、救うこともできません。本当に酷い、見るに堪えない世の中なのです。ゆえに、「神よ、立ち上がり、地を裁いてください」（詩篇82：8）との叫ぶのです。これはリバイバルへの祈りです。神様しか、この堕落した状況を変えることができる真の裁判官はいないからです。

【火曜日・王の約束】

詩篇101篇は、ダビデが王に即位した初期のころに書かれたものと考えられています。そこには真摯な決意がみなぎっています。「慈しみと裁きをわたしは歌い、主よ、あなたに向かって、ほめ歌います。」「完全な道について解き明かします。」「無垢な心をもって行き来します。」「卑しいことを目の前に置かず、背く者の行いを憎み、まつわりつくことを許さず、曲がった心を退け、悪を知ることはありません。」などと誓っています。この誓いは王のみならず、家庭における親から様々な責任を負っている人まで、すべての指導者の宣言でなければなりません。

【水曜日・主とともに歩む】

詩篇は後半になるにつれて、「主を讃美せよ」という言葉が繰り返されるようになっていきます。そして、その理由として、「主は虐げられている人のために裁きをし、飢えている人にパンをお与えになる。主は捕われ人を解き放ち主は見えない人の目を開き、主はうずくまっている人を起こされる。主は従う人を愛し 主は寄留の民を守り、みなしごとやもめを励まされる。しかし主は、逆らう者の道をくつがえされる」（詩篇146：5～9）ことが挙げられています。わたしたちは神様は賛美するときに、いかに弱い人を助けられる方なのかを意識する必要があります。なぜなら、その弱い人の一人こそ、自分だからです。どんなに地位や名誉があっても、最後にはみな自分のことすらもできないような、弱い者になっていくのです。どんなにこの世の人を頼っても、「人間には救う力はない」（詩篇146：3）のです。

【木曜日・箴言―乏しい人への憐れみ】

・富に対する教え

「手のひらに欺きがあれば貧乏になる。勤勉な人の手は富をもたらす」箴言10章 4節

＊神様は怠惰な人を好まれません。勤勉であることは大切なことであり、結果的に豊かな生活をもたらします。

「神に従う人は食べてその望みを満たす。神に逆らう者の腹は満たされることがない」箴言13章 25節

＊ただ勤勉なだけでなく、神様に従うことが大切です。神様に従う人は神様が養ってくださるので飢えることがありません。

「貧しい人の一生は災いが多いが、心が朗らかなら、常に宴会にひとしい。財宝を多く持って恐怖のうちにあるよりは乏しくても主を畏れる方がよい」箴言 15章15、16節

＊貧しくて苦労が多くても心がいつも朗らかなほうが、財産があるけれども不安の中に生きるよりも良いのです。

「貧しくもせず、金持ちにもせずわたしのために定められたパンでわたしを養ってください。 飽き足りれば、裏切り主など何者か、と言うおそれがあります。貧しければ、盗みを働きわたしの神の御名を汚しかねません」箴言30章 7～9節

＊神様は必要をいつも満たしてくださいますが、それはその人にとってちょうど良いものです。

・弱者に対する教え

「弱者を虐げる者は造り主を嘲る。造り主を尊ぶ人は乏しい人を憐れむ」箴言14章 31節

＊神様に従う人は、弱者に対して憐れむ心があります。弱者との関係は、神様との関係に直結しています。

「弱者を憐れむ人は主に貸す人。その行いは必ず報いられる」箴言 19章 17節

弱者を憐れむというのは、主に貸すことを同じです。つまり、その行いを必ず神様は報いてくださるということです。最高の報いは永遠の御国の扉が開かれるということでしょう。